

災害医療の担い手は、自治体、消防、医師会、日本赤十字社、自衛隊、警察、住民（ボランティアを含む）と多彩であるが、今後は、これらを“横に”連絡するネットワークづくり、情報交換システムの改善が必要であることで意見が一致した。一方、実際の災害時には個々の臨機応変、柔軟な対応が非常に重要である点も確認された。

## 第 201 回新潟循環器談話会例会

日 時 平成 6 年 12 月 3 日 (土)  
場 所 新潟大学医学部  
第 5 講義室

### I. 一 般 演 題

- 1) 左冠動脈主幹部狭窄による狭心症を来した若年女性の 1 例

山田 聡志・岡田 義信 (県立がんセンター)  
堀川 紘三 (新潟病院内科)  
大関 一・江口 昭治 (新潟大学第二外科)

症例は 19 歳女性で平成 6 年 1 月より労作時胸痛が出現するようになり来院。ホルター ECG で症状に一致して ST は低下し、NTG が有効であった。家族歴や既往歴に特記すべきことなし。冠動脈危険因子や、ピルの服用歴もなし。現症は身長 163 cm、体重 47.3 kg、血圧 116/70 で上肢、下肢ともに左右差なし。一般検査でも検血、凝固能、炎症反応、脂質などに異常なく、膠原病を思わせる所見も認められなかった。ECG、胸部 X-p、心エコーは異常なしであった。TMT、負荷心筋シンチは陽性、CAG では LMT 入口部に 99% の狭窄が認められ、RCA より側副血行路が発達していた他に異常は認められなかった。LVG、AOG は大動脈の分枝を含めて正常であった。その後新大第二外科にて LMT の patch plasty を施行し、以後は狭心症は消失した。手術所見は上行大動脈、主肺動脈、右大腿動脈は全周性に肥厚し、上行大動脈の病理所見は小円形細胞浸潤、中膜の弾性線維の断裂、血管増生などが見られ、大動脈炎症候群が考えられた。

- 2) 冠動脈の慢性完全閉塞病変に対し Palmaz-Schatz stent 植え込み術を行った家族性高コレステロール血症 (ヘテロ) の 1 例

岩崎 康一・小川 祐輔 (新潟こぼり病院)  
大塚 英明・土谷 厚 (循環器内科)  
三井田 孝 (新潟大学  
検査診断学教室)

【症例】55 才男性。【主訴】胸痛。【家族歴】叔父 52 才突然死。子供 3 人、コレステロール高値あり。【現病歴】80 年頃健診で高コレステロール血症を指摘されるも放置。91 年 12 月から投薬を開始されるもコントロール不良 (T-Chol 420 TG 276 mg/dl)。93 年 5 月労作時胸痛出現、冠動脈造影にて #4 100% の他に #6 42, 32% 狭窄も認められ、内服変更し 7 月からは LDL-apheresis も追加、コントロール良好 (T-Chol 110~130 mg/dl) となるも本年 3 月~再び労作時胸痛出現し増強したため、9 月 13 日に冠動脈造影施行。#6 完全閉塞 (閉塞長 15 mm) へと進行、右冠動脈より側副血行を認めた。左室造影では壁運動は正常であり、同部位に対し PTCA および Palmaz-Schatz stent 植え込み術を施行。最終的に 3.5 mm バルーンにてほぼ狭窄 0% に改善した。【考案】家族性高コレステロール血症では短期間に冠動脈病変が進行することがあり注意深いフォローアップが必要と思われる。

- 3) 冠動脈 interventional therapy の成績

岡部 正明・高橋 稔  
小山 仙・宮島 静一 (立川綜合病院)  
石黒 淳司・佐藤 政仁 (循環器内科)

1993 年 1 月より 1994 年 6 月の間に当院で行われた interventional therapy はのべ 307 病変であった。PTCA が 85% を占め、new device では、DCA が 6% (21 病変)、Palmaz Schatz stent が 9% (34 病変) であった。DCA の対象血管は de novo が多く、Stent の場合は restenotic lesion がほとんどであった。成功率は elective PTCA で 89%、DCA で 90%、Stent で 96% といずれも 90% 前後であった。合併症としては死亡 0% (0 病変)、心筋梗塞 0.9% (3 病変)、緊急バイパス術 0.6% (2 病変) であった。再狭窄率は elective PTCA で 42%、DCA で 57%、Stent で 19% にみられた。DCA、Stent とも PTCA に比しより少ない狭窄率をえられるが、再狭窄が DCA で多かった。Stent 後の再狭窄は少なく再狭窄予防効果が期待できる。急性心筋梗塞に対する direct PTCA 74 病変の成功率は 87% であり、再